

1. 授業科目名	PISA型学力と未来の教師像		
2. 担当教員名	藤澤 健一		
3. 授業の概要	OECDによって継続的に実施されてきたPISA調査の概要、結果を解説する。同調査において求められる学力には、どのような特徴があるのか、実際に出題された問題を解くことで理解する。そのうえで、これまでの職歴・キャリアを振り返りつつ、今後の教師に要求される資質と技能を展望する。おなじくOECDによるTALISについても参照する。		
4. 到達目標	PISAとはなにかを正確に理解する。キー・コンピテンシーの概念を正確に理解する。これからの教師に求められる資質と技能を自己に即して展望する。		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1	PISAとはなにか PISAの問題を実際に問いてみましょう PISAの国別比較 PISA型学力とは「キー・コンピテンシー」 未来の教師像	担当者からの説明と受講者によるグループ・ワークを織り交ぜながら、実践的に学習する。
6. テキスト・参考文献等	ドミニク・S. ライチェンほか『キー・コンピテンシー』明石書店、2006年 立田慶裕『キー・コンピテンシーの実践』明石書店、2014年 国立教育政策研究所編『教員環境の国際比較』明石書店、2014年		
7. 成績、評価方法・基準	筆記試験を講義最後半の30分程度で実施。		
8・特記事項	比較的、少人数のグループ・ワークを折り込むことで、実践的で相互作用的な講義を展開します。		

講義日程・時間	
8月 20 日 火 曜日	2 限目

1. 授業科目名	地域社会における教育的理念		
2. 担当教員名	農中 至		
3. 授業の概要	産業・社会構造の変容(筑豊地域など炭鉱地帯の場合は、産炭地から旧産炭地化への過程)にともなって子どもとおとなの教育・学習/発達環境にどのような変化が生じ、今日まで至るのか。この変動過程を歴史的かつ現代的に読み解きながら、産業構造の転換過程において地域社会で求められる教育的な取り組みとはなにか、それら諸活動においてはいかなる教育的理念が基底に据えられる必要があるのかを検討します。本講義では、2000年代から2010年代にかけての現代日本社会と教育の変化との関連も視野に入れ、2020年代の学校・幼稚園・保育園と地域との望ましい関係のあり方を展望していきます。		
4. 到達目標	地域の産業・社会構造の変動過程が教育におよぼす影響を適切に捉えられるようになり、限られた条件下で実行性のある地域教育実践にはどのような形態がありうるのか理解する。また、その際にどのような教育的理念が不可欠かを理解し、自らの教育実践を対象化でき、現在の自己の置かれた状況と実践を批判的に吟味できるようになる。		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1	①2000年から2010年代の日本 ②進む暮らしの変化と地域 ③貧困問題の可視化と新しい学習ニーズ ④旧産炭地から読み解く教育のあり方 ⑤必要な教育的理念とはなにか	グループワーク・講義
6. テキスト・参考文献等	①牧野篤『社会づくりとしての学び』東京大学出版会、2018 ②牧野篤『公民館はどうかたられてきたのか』東京大学出版会、2018 ③川端浩平・安藤丈将編『サイレント・マジョリティとは誰か』ナカニシヤ出版、2018 ④知念渉『〈ヤンチャな子ら〉のエスノグラフィー』青弓社、2018 ⑤岸政彦『マンゴーと手榴弾』勁草書房、2018 ⑥布施えりこ『キャバ嬢なめんな。』現代書館、2018 ⑦上間陽子『裸足で逃げる』太田出版、2017 ⑧辻浩『現代教育福祉論』ミネルヴァ書房、2017 ⑨日本社会教育学会編『子ども・若者支援と社会教育』東洋館出版社、2017 ⑩教育科学研究会編『講座 教育実践と教育学の再生 地域・労働・貧困と教育』第4巻、かもがわ出版、2013 ⑪西村佳哲『いま、地方でいきるといふこと』ミシマ社、2011 ⑫上野英信『火を掘る日日』大和書房、1979		
7. 成績、評価方法・基準	記述試験を実施。		
8・特記事項			

## 講義日程・時間

8月20日 火曜日

3 限目

1. 授業科目名	発達障害児の行動と脳科学		
2. 担当教員名	麦島 剛		
3. 授業の概要			
4. 到達目標			
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1		
6. テキスト・参考文献等			
7. 成績、評価方法・基準			
8・特記事項			